

● 歴史的分野 学習指導計画作成資料（第1学年）

※歴史的分野第1学年の教科書での時数 37 時間・うち学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 8 時間

（第1学年の社会科全体の時数 105 時間・うち学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 18 時間）

※「出かけよう！地域調べ」については、地域の特性に応じた時代を適宜取り扱うことを想定しています。

※移行措置に関わる次の学習（「世界の古代文明」「東アジアの国際関係」）については、該当する「学習内容」欄に示した【移行措置についての留意点】をふまえ、新学習指導要領の規定を適用したご指導をお願いいたします。

累計時数	教科書ページ	学習内容	学習のねらい	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動
1	Ⅱ Ⅲ 1	歴史との出会い 歴史を学ぶにあたって	○現代の私たちの生活のなかで、歴史を学ぶことができる機会を確認することができる。 ○小学校の学習をふまえながら、中学校で歴史を学んでいく目的や意義を理解することができる。	・P.Ⅱ～Ⅲの「歴史との出会い」を読み、四つの問いに取り組む。四つの問いは、P.287で確認する。 ・P.1の「歴史を学ぶにあたって」の文章を読み、小学校と中学校の歴史学習のちがいや、歴史を学んでいく目的や意義について考え、まとめる。 【1時間】

第1編 歴史のとらえ方

配当 5 時間

うち第1学年の学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 1 時間

累計時数	教科書ページ	学習内容	学習のねらい	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動
2	6 ～ 8	歴史の流れをふり返ろう	○小学校の学習内容をふり返り、日本の歴史はいくつかの時代に分けられるとともに、時代が変化していることに気づくことができる。	・P.6～8を見て、小学校の歴史学習で学んだことをふり返り、歴史上の人物やできごと・文化遺産などについて知っていることをノートなどにまとめる。 【1時間】
3 4	9	時代を代表する人物などについて、調べて考えよう	○ワークシートにまとめる作業を通じて、区分された各時代の特色に気づくことができる。	

5	10 11	班で考えたことを整理して発表しよう	○班の発表をもとにして、歴史が変化していることに気づき、その変化がどうして起こったのか疑問をもちながら、中学校の歴史学習に取り組むことができる。	
6	12 13	歴史をはかるものさし さあ、中学校の歴史学習を始めましょう	○歴史学習の前提となる年代の表し方や時代区分を理解することができる。 ○中学校での歴史学習のポイントを理解しつつ、これからの学習に意欲をもつことができる。	

第2編 古代までの日本

配当 18 時間

うち第 1 学年の学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 3 時間

第1節 人類の始まりと文明

累計 時数	教科書 ページ	学習内容	学習のねらい	学校の授業以外の場において行う ことが考えられる教材・学習活動
7	14 ～ 17	【導入】 ・「古代までの日本」の特色を探っていこう ・地図で見る世界の動きー 人類の広がり	○類人猿と猿人の資料を比較して、人類の祖先のくらしのようすをイメージし、それと同時に第2編の課題を明らかにすることができる。 ○古代までの時代の流れや、人類の誕生と広まりのようすをおおまかにとらえることができる。	・導入ページ (P. 14～15) に掲載されている写真を見て、「読み取ろう」の活動に取り組み、類人猿と猿人を見比べて、サルとヒトとのちがいは何かを読み取る。 ・歴史地図 (P. 16～17) に付した「読み取ろう」の活動に取り組むほか、年表を使って小学校の既習内容をふり返り、これから学ぶ時代をおおまかにとらえる。 ・教師用指導書付録 CD-ROM に収録されたワークシートも活用する。 【1 時間】
8	18 19	1 人類の誕生 ・人類の誕生と進化 ・農耕と牧畜の始まり	○気候の変動や環境の変化に適応して誕生した人類とその進化を理解することができる。 ○狩猟・採集から農耕・牧畜へと生活が変化するようすを、気候の変動と関連づけて説明することが	

			できる。	
9	20 21	2 世界の古代文明 ・文明の始まり ・メソポタミア文明 ・エジプト文明 ・インドの文明 ・文明の交代 【移行措置についての留意点】 主権者の育成という観点から、「世界の古代文明」の指導に当たっては、ギリシャ・ローマの文明について、政治制度など民主政治の来歴の観点から取り扱うこと。	○メソポタミア・エジプト・インダス・中国文明が、農耕・牧畜が発展しやすい大河の流域でおこったことを理解することができる。 ○古代文明の特色が、生活技術の発達、文字の使用、国家のおこりと発展などで共通点があることに気づくことができる。	
10	22 23	3 東アジアに広がる中国の文明 ・中国の文明 ・古代中国を統一した秦と漢 ・朝鮮半島の国々	○大河の近くに誕生した殷や、古代中国の全土を統一した秦と漢の国家としてのようすを理解することができる。 ○中国文明も、前時の三文明と同じように、農耕・牧畜を基盤として発生し、金属器や漢字など日本とのかかわりが深いものが発展していくようすを理解することができる。	
11	24 25	4 宗教のおこり ・世界の三大宗教 ・仏教 ・キリスト教 ・イスラム教	○イスラム教・キリスト教・仏教がおこった地域が、それぞれインド、西アジアなどの文明がおこった地域と重なることに気づくことができる。 ○現代の世界に大きな影響を与えている宗教が、どのようにしておこったのかについて理解することができる。	

第2節 日本列島の人々と国家の形成

累計 時数	教科書 ページ	学習内容	学習のねらい	学校の授業以外の場において行う ことが考えられる教材・学習活動
12	26 27	1 日本人のルーツと縄文時代 ・日本列島に住みはじめた人々 ・縄文人の暮らし	○日本列島にも旧石器時代があったことを史料等から考えることができる。 ○縄文時代の人々の生活が旧石器時代よりも豊かになるとともに、精神面も発達したことを理解することができる。	
13	28 29	2 稲作の広まりと弥生時代 ・稲作の広まり ・ムラからクニへ ・邪馬台国	○本格的な稲作の開始によって、自然物獲得経済から生産経済へと変わったことを理解することができる。 ○ムラ同士の争いからクニが誕生し、クニの王は、中国皇帝の権威を利用したことを理解することができる。	
-	30 31	【先人に学ぶ】 日本の食生活のルーツを探るー「和食」の始まりー	○日本の食生活のルーツを探りながら、原始から古代までの学習内容をさらに深めることができる。	
14	32 33	3 ヤマト王権と渡来人 ・巨大な墓とヤマト王権 ・大王・豪族と人々の生活 ・中国や朝鮮との交流と渡来人	○古墳の分布や大陸との関係を通してヤマト王権による国家の形成について理解することができる。 ○渡来人の知識や技術がヤマト王権にあたえた影響を理解することができる。	
15	34 35	4 東アジアの統一国家 ・隋や唐の中国統一 ・国際都市長安 ・新羅の統一	○6世紀末に中国に登場した統一国家とその制度について理解することができる。 ○統一国家の成立が、東アジア周辺国にあたえた影響を理解することができる。	

16	36 37	5 聖徳太子と飛鳥文化 ・蘇我氏と聖徳太子 ・飛鳥文化	○蘇我氏と聖徳太子のめざした国家について理解することができる。 ○飛鳥文化の特徴を資料から読み取ることができる。	
17	38 39	6 律令国家をめざして ・大化の改新 ・律令国家の成立	○唐や朝鮮半島の情勢から、大化の改新が必要であったことを説明することができる。 ○大化の改新や壬申の乱を経て、律令国家のしくみが整備されたことを理解することができる。	

第3節 古代国家の展開

累計 時数	教科書 ページ	学習内容	学習のねらい	学校の授業以外の場において行う ことが考えられる教材・学習活動
18	40 41	1 奈良の都と律令制下の くらし ・奈良の都 ・律令国家のもとでのくらし	○日本の律令国家のしくみを理解することができる。 ○「税」の視点から当時の人々のくらしを説明することができる。	
19	44 45	【とらえよう！時代の転換】 印や国名に着目して、古代日本の時代の転換を考えてみよう	○古代日本における印の種類と国の名前に着目し、律令国家をつくりあげた人々がめざした日本の姿を説明することができる。	・P. 44～45の「STEP 1～3」に取り組み、古代の日本の印の大きさや国名を手がかりに、古代の日本ではどのような国をつくるのがめざされていたのかを考え、まとめる。①～⑥の問いは、P. 295で答え合わせをする。 ・教師用指導書付録 CD-ROM に収録されたワークシートも活用する。 【1時間】
20	46 47	2 国際色豊かな文化 ・天平文化 ・万葉集と歴史書	○天平文化の成立を、仏教の広まりや遣唐使がもたらす唐の文化の影響などを通して理解することができる。	
21	48 49	3 平安京 ・平安の都 ・新しい仏教	○都を平安京に移した理由を考えることができる。 ○平安時代の仏教の特	

			徴を理解することができる。	
22	50 51	4 撰閣政治と国風文化 ・撰閣政治と地方の政治 ・東アジアの変化と国風文化	○藤原氏が撰閣政治を行って勢力を拡大したことや、そのころ、地方の政治が乱れていたことを理解することができる。 ○東アジアの変化を背景に、貴族のあいだで日本の風土や生活に合った文化が生まれたことを理解することができる。	
23	52 53	5 武士の登場 ・武士のおこり ・東北地方の発展	○律令制がおとろえていくなかで、武士が力を強めてきた背景を考えることができる。 ○東北地方の発展と武士の成長のようすを理解することができる。	
-	54 55	【でかけよう！地域調べ】 史跡見学に行こう 平城宮跡を歩くー奈良県奈良市ー	○身近な地域にある史跡見学の方法や調査方法を身につけ、実際に調査した内容をまとめて発表することができる。	
24	56 57	【学習の活用ーとらえよう！ 「古代までの日本」の特色】 「文字の変化」に着目して、時代の特色にせまろう	○古代の日本における文字の特徴を政治や社会の動きと関連づけて理解することができる。 ○古代までの日本と東アジアとの関係を説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ P. 56 で年表と地図を使って学習をふり返り、日本や世界の動きの確認やできごとが起きた場所の確認の問いに取り組む。年表の確認の問いは、P. 295 で答え合わせをする。 ・ P. 57 で「文字の変化」に着目して、「STEP 1～3」の活動に取り組む。時代の特色をとらえる。 ・ 教師用指導書付録 CD-ROM に収録されたワークシートも活用する。 <p>【1 時間】</p>

第3編 中世の日本

配当 13 時間

うち第 1 学年の学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 3 時間

第1節 鎌倉幕府の成立

累計 時数	教科書 ページ	学習内容	学習のねらい	学校の授業以外の場において行う ことが考えられる教材・学習活動
25	58 ～ 61	【導入】 ・「中世の日本」の特色を探っていこう ・地図で見る世界の動き－13世紀の日本と世界	○古代と中世の人々のくらしを表す資料を比較して、中世の特徴をイメージし、それと同時に第3編の課題を明らかにすることができる。 ○年表や地図を見て、中世の時代の流れや13世紀の日本と世界の様子をおおまかにとらえることができる。	・導入ページ (P. 58～59) に掲載されている写真を見て、「読み取ろう」の活動に取り組み、平安時代と鎌倉時代の人々のくらしを比較し、中世の様子をイメージする。 ・歴史地図 (P. 60～61) に付した「読み取ろう」の活動に取り組むほか、年表を使って小学校の既習内容をふり返り、これから学ぶ時代をおおまかにとらえる。 ・教師用指導書付録 CD-ROM に収録されたワークシートも活用する。 【1時間】
26	62 63	1 院と平氏の政治 ・院政 ・平氏の政治	○藤原氏の政治（摂関政治）と院政の共通点と相違点や、平氏の歴史的背景などを考えて意見を出し合うことを通して、公家と武家がどのような関係性で政権をつくっていったのかを説明することができる。	
27	64 65	2 武家政治の始まり ・源頼朝と鎌倉幕府 ・執権政治	○鎌倉幕府の政治勢力の広がりをとらえ、貴族や平氏の政治とのちがいについて考え合うことを通して、幕府の成立過程と政治的特色について説明することができる。	
28	66 67	【とらえよう！時代の転換】 承久の乱を通して、古代から中世への転換を考えてみよう	○承久の乱をきっかけに、公家と武家が一体化した政治から武家の全国支配が確立していったことが理解できる。 ○中世の社会構造の特	・P. 66～67 の「STEP 1～3」に取り組み、承久の乱の推移を読み取り、承久の乱後、幕府の勢力がどのように変化したのかを考え、まとめる。①～⑦の問いは、P. 295 で答え合わせをする。 ・教師用指導書付録 CD-ROM に収録さ

			徴について、幕府と御家人との関係に着目しながら説明することができる。	れたワークシートも活用する。 【1時間】
29	68 69	3 鎌倉時代の人々の暮らし ・京都と鎌倉 ・武士と農民 ・農業と商業の発達	○武士の生活の特徴について、貴族の生活と対比しながら読み取ることができる。 ○農業技術や商業、手工業の発達による社会の変化を、生活の向上に結びつけて考えることができる。	
30	70 71	4 鎌倉時代の文化と仏教 ・鎌倉時代の文化 ・鎌倉仏教	○鎌倉時代の仏像の特徴を平安時代の仏像と比較して読み取ることができる。 ○踊念仏のように僧侶が人前で踊る理由を考え、意見を出し合うことを通して、鎌倉時代の文化や仏教が武士や民衆を中心に広まり受け入れられていったことを理解することができる。	
31	72 73	5 元の襲来と鎌倉幕府 ・強大なモンゴル帝国 ・元の襲来 ・鎌倉幕府のおとろえ 【移行措置についての留意点】 我が国の歴史の背景となる世界の歴史の扱いの一層の充実という観点から、「東アジアの国際関係」の指導に当たっては、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解するとともに、モンゴル帝国の拡大によるユーラシアの結びつきについて気付かせること。	○『蒙古襲来絵詞』から、幕府軍と元軍の武器や戦い方のちがいに気づくことができる。 ○元寇の経過や御家人の立場、その後の幕府の対応を理解し、元寇後、鎌倉幕府がおとろえた理由を説明することができる。	
-	74 75	【歴史を掘り下げる】 古代から中世への土地制度の移り変わりー班田制から荘園公領制へー	○初期荘園と寄進地系荘園とのちがいを理解することができる。 ○古代の班田制と比較しながら中世の土地	

			制度の特徴を説明することができる。	
-	76	【先人に学ぶ】 東大寺の再興と重源－再興を支えた中世の人々－	○今に残る東大寺はたびたび戦禍を被ったことや、中世においては、重源を始めとするさまざまな人々の協力があつて再興されたことを理解することができる。	
-	77	【歴史を掘り下げる】 海底から姿を現した元の軍船－長崎県松浦市鷹島神崎遺跡－	○海底から元の軍船などが発見された鷹島神崎遺跡を知り、その発掘成果に関心をもつことができる。	

第2節 室町幕府と下剋上

累計 時数	教科書 ページ	学習内容	学習のねらい	学校の授業以外の場において行う ことが考えられる教材・学習活動
32	78 79	1 南北朝の内乱と室町幕府 ・建武の新政 ・南北朝の内乱 ・守護大名と室町幕府	○室町幕府が成立した過程と、守護大名が誕生するいきさつについて、南北朝の内乱を通して理解することができる。	
33	80 81	2 東アジアとの交流 ・明とのかかわり ・朝鮮とのかかわり ・中世の琉球やアイヌとのかかわり	○15世紀の東アジア諸国と日本との関係について、勘合貿易などを通して理解することができる。	
34	82 83	3 産業の発展と都市と村 ・商人・手工業者の成長 ・都市と交通の発達 ・村の自治と土一揆	○農業の発達によって、商業や手工業が発達したことを理解することができる。 ○村の自治が進むとともにまとまりを強めた農民が、自分たちの生活を守るために一揆を起こしたことを理解することができる。	
35	84 85	4 応仁の乱と戦国大名 ・応仁の乱 ・自治の広まり ・戦国大名	○応仁の乱によって世の中が乱れ、民衆たちが自分たちの生活を守るために、各地	

			<p>で一揆が起こったことを理解することができる。</p> <p>○応仁の乱によって、室町幕府の権威は低下し、実力で領国を支配する戦国大名が現れたことを理解することができる。</p>	
36	86 87	<p>5 室町時代の文化とその広がり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室町時代の文化 ・民衆文化の高まり 	<p>○北山文化と東山文化の特徴に気づくとともに、同じ室町時代でも時期によって全く異なる文化が生まれたことを理解することができる。</p> <p>○室町時代の文化が民衆に広まったことや、差別されていた人々も文化の担い手として活躍したことを理解することができる。</p>	
-	90	<p>【歴史を掘り下げる】 中世の女性たち</p>	<p>○中世の女性たちが、社会のなかでどのような位置づけをされていたのかや、どのような職業について働いていたかを調べ、そこにはたくましく生きる姿があったことを理解することができる。</p>	
-	91	<p>【先人に学ぶ】 信玄堤—今に伝わる戦国時代の治水事業—</p>	<p>○今に残る信玄堤から、戦国大名の治水事業に関心を持ち、防災・減災を図ろうと、対策が取られていたことを理解することができる。</p>	
-	92 93	<p>【でかけよう！地域調べ】 歴史博物館に行こう 草戸千軒町遺跡を調べる— 広島県福山市—</p>	<p>○歴史新聞づくりを通して、歴史的事象に対して興味や関心をもつことができる。</p> <p>○新聞づくりのため、必要な資料の収集と選択や、多面的・多角的な考察を行い、調査したことを適切に表現することができる。</p>	

			きる。	
37	94 95	【学習の活用—とらえよう！ 「中世の日本」の特色】 「法」に着目して，時代の特色にせまろう	○第3編での学習を年表と地図で確認し，時代の流れや位置的關係を説明することができる。 ○古代と中世における「法」のちがいをもとに，政治の権力が武家へと移り，封建關係が中世の基盤であったことを理解し，中世の特色としてまとめ，説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ P. 94 で年表と地図を使って学習をふり返り，日本や世界の動きの確認やできごとが起きた場所の確認の問いに取り組む。年表の確認の問いは，P. 295 で答え合わせをする。 ・ P. 95 で「法」に着目して，「STEP 1～3」の活動に取り組み，時代の特色をとらえる。 ・ 教師用指導書付録 CD-ROM に収録されたワークシートも活用する。 <p>【1時間】</p>

● 歴史的分野 学習指導計画作成資料（第2学年）

※歴史的分野第2学年の教科書での時数 41 時間・うち学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 6 時間

(第2学年の社会科全体の時数 105 時間・うち学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 14.3 時間)

※「出かけよう！地域調べ」については、地域の特性に応じた時代を適宜取り扱うことを想定しています。

※移行措置に関わる次の学習（「ヨーロッパ人来航の背景」「市民革命」「富国強兵・殖産興業政策」）については、該当する「学習内容」欄に示した【移行措置についての留意点】をふまえ、新学習指導要領の規定を適用したご指導をお願いいたします。

第4編 近世の日本

配当 18 時間

うち第2学年の学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 3 時間

第1節 中世から近世へ

累計時数	教科書ページ	学習内容	学習のねらい	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動
38	96～99	【導入】 ・「近世の日本」の特色を探っていこう ・地図で見る世界の動き一つにつながれた世界	○中世と近世の幕府の建物を比較して、近世の特徴をイメージし、それと同時に第4編の課題を明らかにすることができる。 ○近世の時代の流れや15, 16世紀の日本と世界のようすをおおまかにとらえることができる。	・導入ページ(P.96～97)に掲載されている写真を見て、「読み取ろう」の活動に取り組み、室町時代と江戸時代の幕府の建物を比較し、近世のようすをイメージする。 ・歴史地図(P.98～99)に付した「読み取ろう」の活動に取り組むほか、年表を使って小学校の既習内容をふり返り、これから学ぶ時代をおおまかにとらえる。 ・教師用指導書付録CD-ROMに収録されたワークシートも活用する。 【1時間】
39	100～101	1 イスラム教の世界とキリスト教の世界 ・イスラム教の世界の発展 ・アジアに向かうキリスト教徒 【移行措置についての留意点】 我が国の歴史の背景となる世界の歴史の扱いの一層の充実という観点から、「ヨーロッパ人来航の背景」の指導に当たっては、アジアの取引の状況やムス	○イスラム教世界の拡大と商人たちの活発な東西の交流が、キリスト教世界に影響をあたえたことを理解することができる。 ○十字軍の遠征はキリスト教世界に大きな変化をもたらし、宗教改革によるイエズス会の布教活動を誘発しアジアやアフリ	

		<p>リム商人などの役割と世界の結びつきに気付かせること。</p>	<p>カにも広がったことを説明できる。</p>	
40	102 103	<p>2 つながれてゆく世界</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポルトガル人などのアジア進出 ・一体化する世界 <p>【移行措置についての留意点】 同上。</p>	<p>○ヨーロッパ人が新航路を開いた目的を、主にヨーロッパとアジアの関係で整理し、植民地化が進められたことを説明することができる。</p> <p>○ヨーロッパ諸国によるアメリカ大陸の植民地化が進められ、世界が一つにつながれていったことを説明することができる。</p>	
41	104 105	<p>3 ヨーロッパ人の来航と信長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄砲とキリスト教の伝来 ・織田信長の統一事業 <p>【移行措置についての留意点】 同上。</p>	<p>○この時代にヨーロッパ人が伝えた鉄砲・キリスト教が、日本の社会に与えた影響を考えることができる。</p> <p>○織田信長の統一事業の過程を、その経済政策、宗教政策などと関連させながら理解することができる。</p>	
42	108 109	<p>4 全国統一と近世社会の基礎づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊臣秀吉の全国統一 ・太閤検地 ・刀狩 	<p>○信長の統一事業を引き継いだ豊臣秀吉は、朝廷の権威も利用しながら全国統一を成し遂げていったことを理解することができる。</p> <p>○太閤検地や刀狩などの政策から、兵農分離を始め、近世社会の基礎をつくっていったことを理解することができる。</p>	
43	110 111	<p>5 秀吉の海外政策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東アジアにおける貿易 ・秀吉の朝鮮への侵略 	<p>○南蛮貿易、南蛮文化の日本への影響や秀吉の海外政策と朝鮮侵略の意図について理解することができる。</p> <p>○全国統一後の豊臣政権の膨張と朝鮮侵略</p>	

			が表裏一体をなし、豊臣政権の没落を早めることになったことを理解することができる。	
44	112 113	6 安土桃山時代の文化 ・桃山文化	○桃山文化の特色を建築・絵画・芸能などから理解し、その特色が生まれた理由を考える。 ○桃山文化が、信長や秀吉の統一事業を背景に、大名や豪商などの町衆たちに支えられた文化であることを理解することができる。	
-	114 115	【でかけよう！地域調べ】 城下町を訪ねよう 城下町姫路を調べる－兵庫 県姫路市－	○城下町の姫路について、新旧の地図を比較し、現代に伝わる町名に着目するなど身近な地域の歴史を調べる方法を身につけることができる。	

第2節 江戸幕府の成立と東アジア

累計 時数	教科書 ページ	学習内容	学習のねらい	学校の授業以外の場において行う ことが考えられる教材・学習活動
45	116 117	1 全国支配のしくみ ・徳川 260 年の基礎 ・将軍の大名支配	○徳川家康による全国支配確立の過程と、幕府による大名支配のありかたを理解することができる。	
46	118 119	2 朱印船貿易から鎖国へ ・朱印船貿易 ・島原・天草の一揆 ・鎖国	○江戸時代の外交政策の特徴である鎖国にいたるまでの過程を、朱印船貿易や島原・天草の一揆と関連づけながら理解することができる。 ○幕府が鎖国へと対外政策を転換した意図を、キリスト教の広がりとともに説明することができる。	
47	120 121	3 隣接地域との関係 ・朝鮮との国交回復 ・琉球王国	○鎖国下の日本において、長崎での貿易のほか、朝鮮・琉球・	

		・蝦夷地とアイヌ	蝦夷地との交流があったことを理解することができる。	
48	122 123	4 江戸時代の百姓と町人 ・百姓と村 ・町人と町 ・江戸時代の身分制	○幕府が年貢の確保のため、村や町のしくみを利用していったことを理解することができる。 ○幕府が身分制を利用した民衆支配に力を入れていたことに気づかせる。	
49	126 127	【とらえよう！時代の転換】 江戸幕府のライバル対策を通して、中世から近世への転換を考えてみよう	○江戸幕府がさまざまな勢力に対して行った政策とそのねらいを整理し、幕藩体制の成立によって幕府の強力な全国支配が行われたことを、近世社会の特色としてとらえて説明することができる。	・P.126～127の「STEP1～3」に取り組み、中世で力をもっていた勢力に対して江戸幕府が行った政策とそのねらいをとらえ、幕府の全国支配がどのように行われたのかについて考え、まとめる。 ・教師用指導書付録CD-ROMに収録されたワークシートも活用する。 【1時間】

第3節 産業の発達と元禄文化

累計 時数	教科書 ページ	学習内容	学習のねらい	学校の授業以外の場において行う ことが考えられる教材・学習活動
50	128 ～ 131	1 産業の発達と都市 ・農業の発達 ・漁業と鉱業の発達 ・にぎわう三都と交通網の発達	○江戸時代に農業・漁業・鉱業などの産業が発達し、飛躍的に生産量が増加したことを理解することができる。 ○産業の発達とともに交通網が整備され、政治・経済・文化の中心都市が発展したことを理解することができる。	
51	132 133	2 江戸時代前期の文化と学問 ・元禄文化 ・学問と教育	○元禄文化が上方を中心に発展したことを理解することができる。 ○学問が武士や庶民に広まり、各藩では藩校で武士の教育に力を入れるようになったことを理解することができる。	

第4節 幕府政治の改革と農村の変化

累計 時数	教科書 ページ	学習内容	学習のねらい	学校の授業以外の場において行う ことが考えられる教材・学習活動
52	134 135	1 幕府政治の改革 ・綱吉・吉宗の政治 ・田沼と定信の政治	○江戸幕府の政治改革を整理し、それぞれの改革の内容を理解することができる。 ○江戸時代の政治改革が十分な成果をあげられず、政治がゆきづまってきた理由を考えることができる。	
53	136 137	2 農村の変化と民衆の動き ・変わる農村 ・百姓一揆と打ちこわし	○商品作物の栽培が広がったことで、農村に大きな変化があらわれたことを理解することができる。 ○一揆は重罪に処せられるにもかかわらず、ききんの時などに増加していった理由を考えることができる。	
54	138 139	3 江戸時代後期の学問と文化 ・国学と蘭学 ・化政文化	○国学や蘭学が広まったことと、これらの学問が社会にあたえた影響を理解することができる。 ○江戸に栄えた化政文化の特色と、民衆への広まりを理解することができる。	
-	140 141	【先人に学ぶ】 幕府のはげ山対策と都市に住む人々のリサイクル	○江戸幕府がはげ山対策を実施していたことや、現代にも通じるリサイクルのしくみが、江戸時代の民衆のくらしに根づいていたことを理解することができる。	
-	142 143	【歴史を掘り下げる】 文化財を守り伝える仕事 ー九州国立博物館の取り組みー	○文化財の保存・修復を手がける九州国立博物館の取り組みを学び、現在まで受け継がれてきた文化財を後世に守り伝えていくことの重要性について考えることが	

			できる。	
55	144 145	【学習の活用—とらえよう！「近世の日本」の特色】 「幕府の収入」に着目して、時代の特色にせまろう	○江戸幕府の収入に着目して、幕府の政策を検証し、幕府政治の諸改革が当時の経済発展についていけず、武士の社会がゆきづまってきたことを近世の特色として説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ P. 144 で年表と地図を使って学習をふり返り、日本や世界の動きの確認やできごとが起きた場所の確認の問いに取り組む。年表の確認の問いは、P. 295 で答え合わせをする。 ・ P. 145 で「幕府の収入」に着目して、「STEP 1～3」の活動に取り組む、時代の特色をとらえる。 ・ 教師用指導書付録 CD-ROM に収録されたワークシートも活用する。 【1 時間】

第 5 編 近代の日本と世界

第 1 章 日本の近代化

配当 23 時間

うち第 2 学年の学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 3 時間

第 1 節 欧米の発展とアジアの植民地化

累計 時数	教科書 ページ	学習内容	学習のねらい	学校の授業以外の場において行う ことが考えられる教材・学習活動
56	146 ～ 149	【導入】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「日本の近代化」の特色を探っていこう ・ 地図で見る世界の動き—19 世紀後半の日本と世界 	<p>○19世紀に関する複数の資料を比較して、当時の日本の変化のようすをイメージし、同時に第 5 編第 1 章の課題を明らかにすることができる。</p> <p>○江戸時代末から明治時代の流れや、19 世紀後半の日本と世界のようすをおおまかにとらえることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 導入ページ (P. 146～147) に掲載されている写真を見て、「読み取ろう」の活動に取り組む、19 世紀後半の日本にどのような変化が起きたのかを確認し、近代のようすをイメージする。 ・ 歴史地図 (P. 148～149) に付した「読み取ろう」の活動に取り組むほか、年表を使って小学校の既習内容をふり返り、これから学ぶ時代をおおまかにとらえる。 ・ 教師用指導書付録 CD-ROM に収録されたワークシートも活用する。 【1 時間】
57	150 151	1 議会政治の成立と産業革命 <ul style="list-style-type: none"> ・ イギリスの議会政治 ・ イギリスの産業革命 	<p>○イギリスで世界で最初の議会政治が確立したことを理解することができる。</p> <p>○イギリスで始まった産業革命によって、機械の発明や改良だけでなく、人々のくらしや社会のようすが大きく変化したことを理解することができる。</p>	

58	152 153	2 アメリカの独立とフランス革命 ・アメリカの独立 ・フランス革命 【移行措置についての留意点】 主権者の育成という観点から、「市民革命」の指導に当たっては、政治体制の変化や人権思想の発達や広がり、現代の政治とのつながりなどと関連づけて、アメリカの独立、フランス革命などを扱うこと。	○イギリスの植民地としておかれていたアメリカの状況に着目するとともに、アメリカ合衆国が成立した過程について理解することができる。 ○市民革命によって、議会制民主主義と近代市民社会が成立していった過程を説明することができる。	
59	154 155	3 産業革命の影響とアメリカ合衆国の発展 ・産業革命の影響 ・南北戦争とアメリカ合衆国の発展	○産業革命が進展する一方で、都市部の生活環境が悪化し、資本家と労働者の貧富の差が拡大したことについて説明することができる。 ○アメリカ合衆国での民主主義の広がりとともに、人種主義など南北間の意見の相違が顕著になってきたことを理解することができる。	
60	156 157	4 ヨーロッパ諸国の侵略と抵抗するアジア ・ムガル帝国とイギリスの支配 ・清とアヘン戦争	○イギリスのインド支配を通して、新たな市場を求めて植民地拡大をめざすヨーロッパ諸国の動きについて説明することができる。 ○イギリスのアジア支配によって貿易形態・社会のようすが変化し、植民地支配に抵抗する人々が現れたことを理解することができる。	

第2節 近世から近代へ

累計 時数	教科書 ページ	学習内容	学習のねらい	学校の授業以外の場において行う ことが考えられる教材・学習活動
61	158 159	1 ゆらぐ幕府の支配 ・外国船の接近 ・大塩の乱と天保の改革	○欧米諸国が日本に多く接近するなかで、新たな動きを見せた	

		<ul style="list-style-type: none"> 藩政の改革と雄藩の成長 	<p>蘭学者に対して幕府が強硬な姿勢をとったことを理解することができる。</p> <p>○天保の改革などにみられる幕府政治の閉塞感と薩摩・長州藩などの藩政改革とを比較し、新たな勢力の台頭について説明することができる。</p>	
62	160 161	<p>2 開国</p> <ul style="list-style-type: none"> ペリーの来航 不平等条約の締結 経済の混乱 	<p>○ペリー来航の国際的な背景をとらえるとともに、幕府が諸大名に意見を求めるなど、幕政に大きな影響をあたえたことを理解することができる。</p> <p>○不平等条約にもとづいた開国の結果、日本の社会が大きく変化し、政治・経済が混乱していくようすを説明することができる。</p>	
63	162 163	<p>3 江戸幕府の滅亡</p> <ul style="list-style-type: none"> 尊王攘夷から倒幕へ 世直し 王政復古と戊辰戦争 	<p>○開国における社会の混乱のなかで、尊王攘夷運動の高まりや攘夷の失敗、倒幕運動にいたる諸藩の動きについて、歴史図表などから読み取ることができる。</p> <p>○尊王攘夷運動に乗じた幕府批判に対する幕府の弾圧や諸藩の動きに着目し、江戸幕府滅亡までの過程について理解することができる。</p>	
-	164 165	<p>【歴史を掘り下げる】 新しい世の中をめざした人々</p>	<p>○19世紀後半の激動の時代のなかで、自由や平等を求めて努力した人々や日本の将来を見据えて近代国家の実現のために努力した人々の動きをとらえ、これらの動きが江戸幕府の滅亡</p>	

			と新政府の樹立にどのようにかかわっていったのかを説明することができる。	
--	--	--	-------------------------------------	--

第3節 近代国家へのあゆみ

累計 時数	教科書 ページ	学習内容	学習のねらい	学校の授業以外の場において行う ことが考えられる教材・学習活動
64	166 167	1 明治維新 ・新政府の成立 ・廃藩置県 ・身分制の廃止と四民平等	○近代国家をめざした新政府の方針や改革の内容を、資料に基づいてとらえ、中央集権国家の体制が確立した経緯を理解することができる。 ○身分制を廃止した新政府のねらいと、人々の生活の変化について考えることができる。	
65	168 169	2 殖産興業と富国強兵 ・殖産興業 ・国民皆兵と徴兵令 ・地租改正	○政府がおし進めた地租改正や富国強兵政策などの近代化政策が、欧米諸国に対抗するために行われたことを理解することができる。 ○明治政府が進めた近代化政策の特色や、人々への影響を説明することができる。	
66	170 171	3 文明開化の展開 ・国民皆学と学制 ・国民をつくる ・さまざまな文明開化	○政府が文明開化を通して、当時の人々の生活をどのように変化させようとしたのかを資料から読み取ったり、まとめたりすることができる。 ○西洋風の生活様式をとり入れ、欧米諸国に追いつくための工夫と努力が行われていたことを理解する。	
67	174 175	【とらえよう！時代の転換】 学校の始まりから、近世から近代への転換を考えてみよう	○江戸時代と明治時代の教育機関や教育内容のちがいを比較しながら、明治政府が何の育成に主眼をお	・P. 174～175の「STEP 1～3」に取り組み、江戸時代から明治時代への教育の変化をとらえ、明治政府がどのような国づくりをめざしていたのかについて考え、まとめ

			いて国づくりを進めていたかを説明することができる。	る。 ・教師用指導書付録 CD-ROM に収録されたワークシートも活用する。 【1 時間】
68	176 177	4 領土の画定と隣接地域 ・領土の画定 ・琉球から沖縄へ ・北海道とアイヌの人々 【移行措置についての留意点】 「富国強兵・殖産興業政策」の指導に当たっては、領土の画定などを取り扱う際に、北方領土に触れるとともに、竹島、尖閣諸島の編入についても触れること。	○当時の国際社会が条約をもとに成り立っていたことを理解することができる。 ○隣接地域との条約締結や領土の画定、琉球や蝦夷地の日本への編入の経緯について説明することができる。	
-	178 179	【歴史を掘り下げる】 近代的な国際秩序への参加	○明治政府が、国際社会での日本の地位向上のため、万国公法にかなう制度改正、対外政策を行ったことを理解することができる。 ○岩倉使節団派遣の目的とその成果や、その影響について説明することができる。	
-	180	【先人に学ぶ】 近代社会に日本を見つめ直す—岡倉天心とフェノロサ—	○岡倉天心とフェノロサの活躍に関心を持ち、意欲的に追究することができる。 ○岡倉天心とフェノロサの取り組みが、その後の日本にあたえた影響について考え、根拠を明らかにしながら説明することができる。	
-	181	【でかけよう！地域調べ】 近代化遺産を訪ねよう 富岡製糸場を調べる—群馬県富岡市—	○地域にある近代化遺産に関心を持ち、その調べ方などを学ぶとともに、日本の近代化に果たした役割について意欲的に追究することができる。	

第4節 立憲制国家の成立

累計 時数	教科書 ページ	学習内容	学習のねらい	学校の授業以外の場において行う ことが考えられる教材・学習活動
69	182 183	1 士族の反乱と自由民権運動 ・続発する士族の反乱 ・国会開設の要求	○新政府の政策をめぐり、江戸幕府を倒した維新の志士が二つに分かれる。不満を高めた士族が武力で反乱を起こすいっぽうで、力ではなく国会の開設で新政府の改革をめざそうとする自由民権運動が起こる過程を理解することができる。	
70	184 185	2 憲法をめぐる対立と運動の激化 ・憲法をめぐる対立と国会開設の公約 ・政党の結成と運動の激化	○憲法がつくられるまでのあいだ、国民の意見を政治に反映させるために、どのような運動がくり広げられたのか、その運動に対して、政府はどのような対応をとったのかをまとめることができる。	
71	186 187	3 内閣制度と大日本帝国憲法 ・内閣制度の成立 ・大日本帝国憲法と教育勅語	○大日本帝国憲法の制定過程や、憲法の制定が国際的地位の向上に役立ったことを理解することができる。 ○帝国議会や地方制度の整備も進められ、近代国家としてのかたちが整えられていった過程をとらえることができる。	
72	188 189	4 帝国議会と条約改正 ・帝国議会の開設と総選挙 ・藩閥政府と民党との対立 ・法律の整備 ・条約改正の実現	○帝国議会のしくみと選挙権について調べるとともに、政府と議会との対立を理解することができる。 ○幕末から続く外交課題である不平等条約の改正の過程を、国際情勢の変化をふまえて説明することができる。	

第5節 日清・日露の戦争と東アジアの動き

累計 時数	教科書 ページ	学習内容	学習のねらい	学校の授業以外の場において行う ことが考えられる教材・学習活動
73	190 191	1 朝鮮をめぐる日本と清 の対立 ・アジアとアフリカの植民 地化 ・日清戦争 ・下関条約と三国干渉	○帝国主義のようすと その目的をつかみ、 わずか150年ほど前 の世界では、列強が 植民地の獲得をめざ して侵略を重ねてい たことを理解するこ とができる。 ○日清戦争について多 面的・多角的に考察 し、説明することが できる。	
74	192 193	2 朝鮮・満州をめぐる日 本とロシアの対立 ・満州をめぐる日本とロシ アの対立 ・日露戦争 ・ポーツマス条約と満州経 営	○日本がロシアとの戦 争に踏み切った理由 を、日本にとっての 朝鮮半島の重要性と ロシアの動きとを関 連させて理解するこ とができる。 ○日露戦争の戦いのよ うすやポーツマス条 約の内容、それに対 する国民の反応につ いて説明することが できる。	
75	194 195	3 日本の朝鮮支配と中国 の近代化 ・韓国併合 ・中華民国の成立	○日本の朝鮮支配と中 国の近代化につい て、諸資料をもとに 考察し、その過程や 結果を理解するとと もに、日露戦争後の 東アジアの状況を適 切に表現することが できる。	

第6節 近代日本の社会と文化

累計 時数	教科書 ページ	学習内容	学習のねらい	学校の授業以外の場において行う ことが考えられる教材・学習活動
76	196 197	1 資本主義の発展と社会 問題 ・工業化の進展 ・労働者と農民	○国家の強力なてこ入 れのもと、日本は工 業化や産業革命が実 現したが、その過程 で社会問題が発生し たことを理解するこ とができる。	

			○日本の産業革命の進展とこの時期の国民生活の変化を結びつけて説明することができる。	
77	198 199	2 社会運動の発展と近代文化の形成 ・社会を変える ・新時代の文化芸術 ・教育の普及	○資本主義の発展は社会にさまざまな影響をあたえ、労働運動や、貧困と抑圧からの解放を求める思想が登場したことを説明することができる。 ○近代思想・文化・芸術が形成され、その背景には教育の普及があることを理解することができる。	
-	200	【先人に学ぶ】 エルトゥールル号遭難事件—日本とトルコの1世紀の年月をこえた国際協力—	○エルトゥールル号遭難事件に関心を持ち、日本とトルコの国際協力について、理解することができる。	
-	201	【歴史を掘り下げる】 山本作兵衛の炭坑記録画（ユネスコ記憶遺産）—近代の産業を支えた人々の記録—	○ユネスコ記憶遺産になった炭坑記録画をきっかけに、近代の産業を支えた人々に関心をもつことができる。	
78	202 203	【学習の活用—とらえよう！ 「日本の近代化」の特色】 明治政府の「政策」から、時代の特色にせまろう	○不平等条約の改正を達成するため、明治政府が諸制度や国内産業の近代化を達成したことを理解し、日本の近代化の特色としてまとめ、説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ P. 202 で年表と地図を使って学習をふり返り、日本や世界の動きの確認やできごとが起きた場所の確認の問いに取り組む。年表の確認の問いは、P. 295 で答え合わせをする。 ・ P. 203 で「政策」に着目して、「STEP 1～3」の活動に取り組む、時代の特色をとらえる。 ・ 教師用指導書付録 CD-ROM に収録されたワークシートも活用する。 <p>【1 時間】</p>